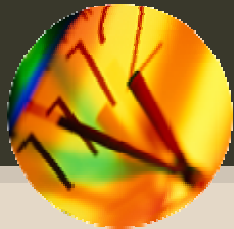




ftServer
Active Upgrade™
(アクティブアップグレード)
のご紹介



Continuous
Availability



Operational
Simplicity



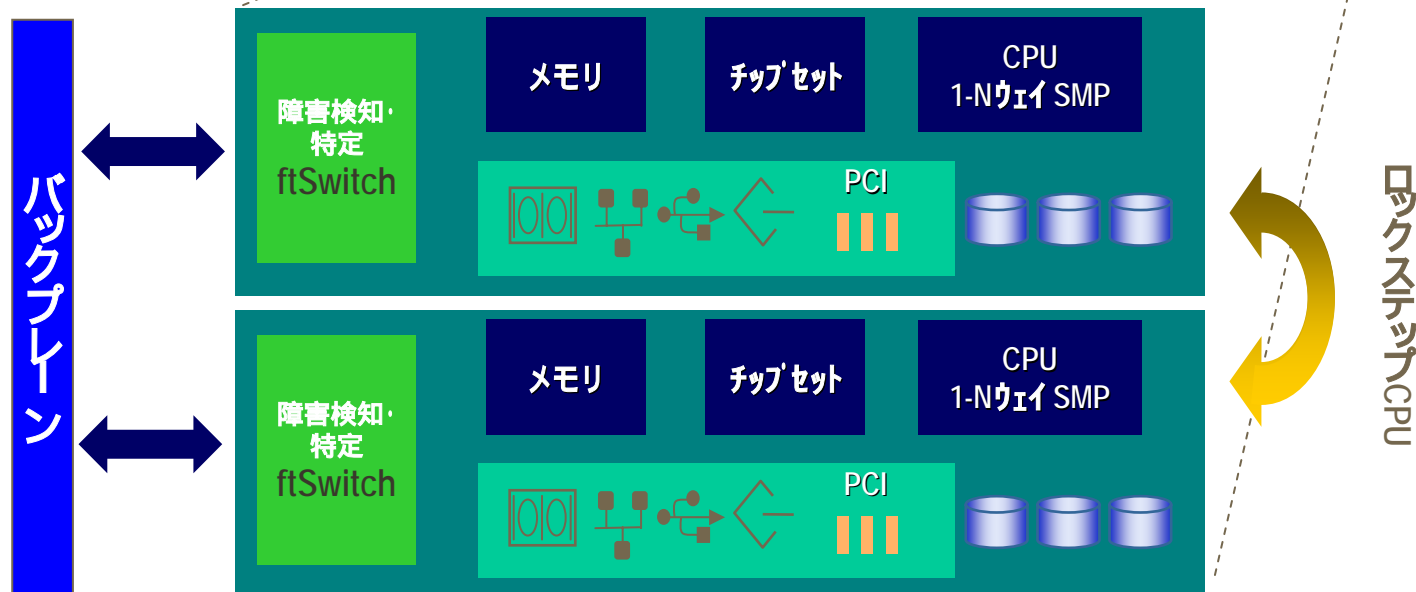
Financial
Advantage

日本ストラステクノロジー株式会社

ftServerのアーキテクチャ



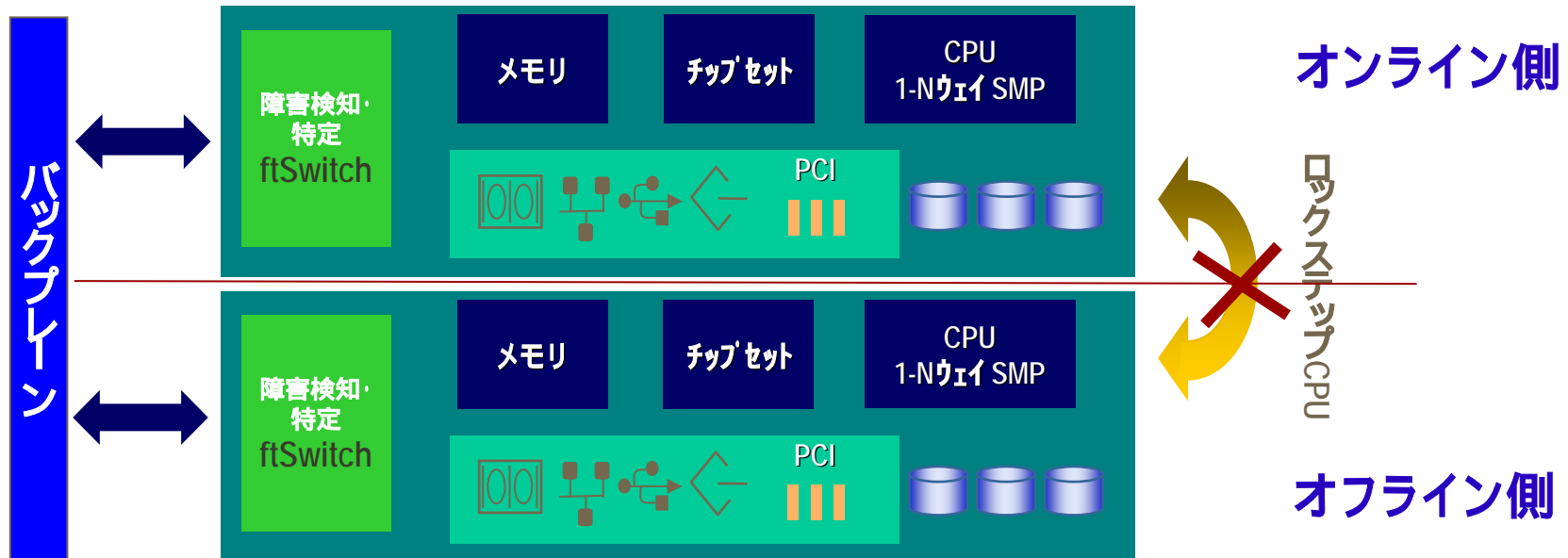
同じ構成のコンポーネントが常時ロックステップ(同期)で動作。
障害時は障害コンポーネントが自動で切り離される。
障害でも運用にインパクトがない



Active Upgrade™の概要



常時ロックステップの同期ユニットを切り離し片側でOSやアプリケーションのアップグレード、パッチを適用
その間、もう片側のオンライン側は業務を続行
オフライン側でアップグレードしリブート(必要な場合)、問題なければオフライン側をオンラインに切り替え



Active Upgrade™の利点



- (1) O/S(Windows)のパッチ適用のリスクと運用停止時間を最小化。
- (2) アプリケーションのアップグレードを運用中に行い、運用停止時間を最小化。
- (3) ftServerシステムソフトウェアのアップグレードの時間を最小化できる。
- (4) パッチ適用やアプリのアップグレードの段階で問題が発見された場合は元に戻せる。
- (5) 実機そのものでパッチ適用、ソフトウェアのアップグレードを運用を停止せずに行える。

(注)パッチ適用、ソフトウェア・アップグレードの間もシステムは停止しません。パッチ適用後リポートが必要な場合もシステム運用は停止しません。しかし、オフライン側とオンライン側を切り替えるときにはサービスをその間停止する必要があります。

(使用例)

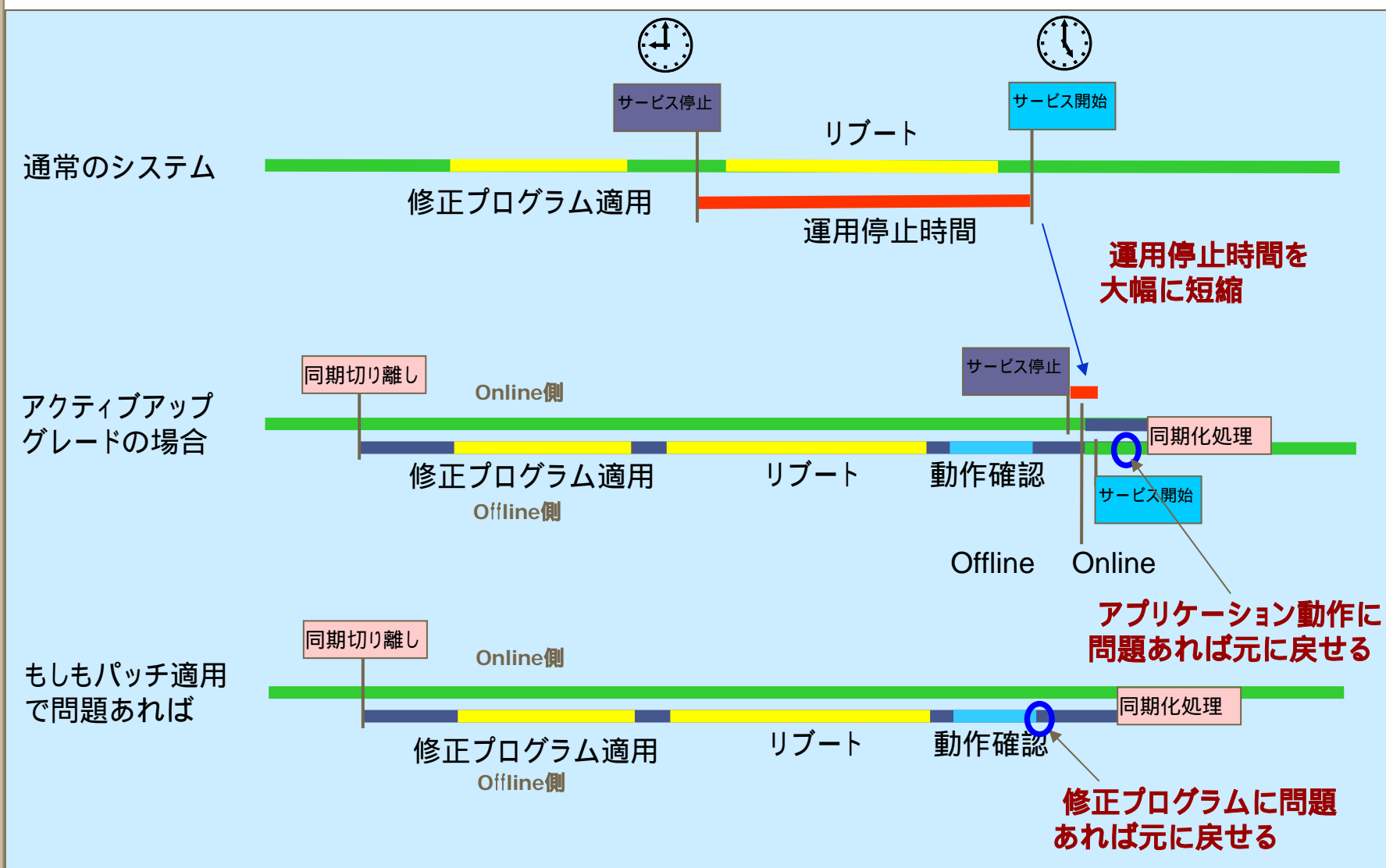
Windowsのパッチを適用する時に、今まで10分くらい運用を止めていた

10数秒程度の停止時間に

テスト機でパッチ適用やアプリケーションのアップグレードしてから本番機で適用していたがテスト機的环境をまったく同じにすることが困難だった 本番機のオフライン側でできるようになる

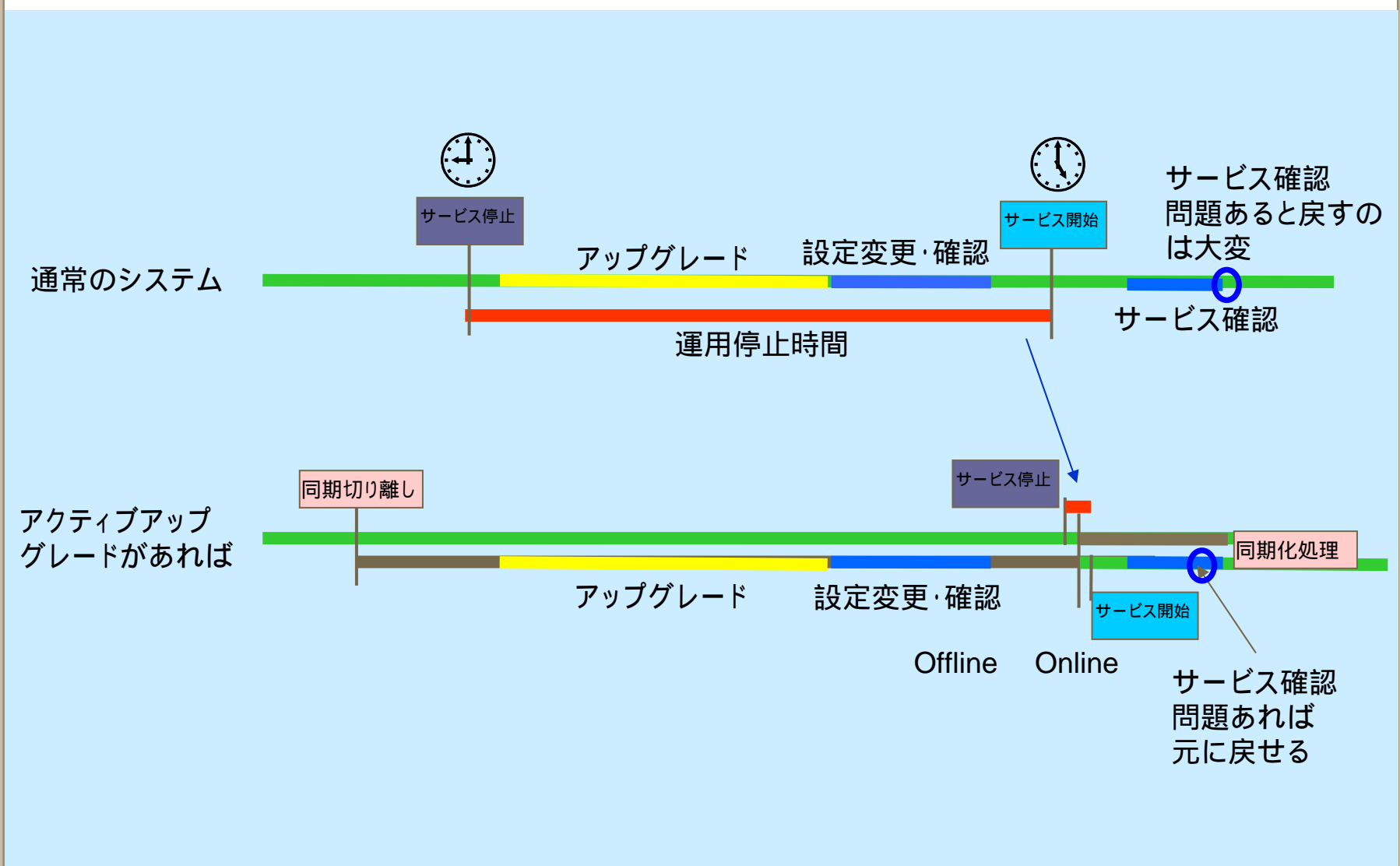
運用停止時間とリスクの比較

Windowsホットフィックス適用の場合

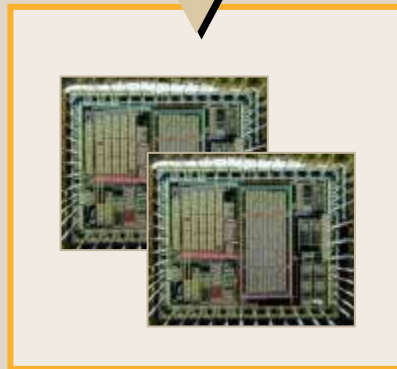
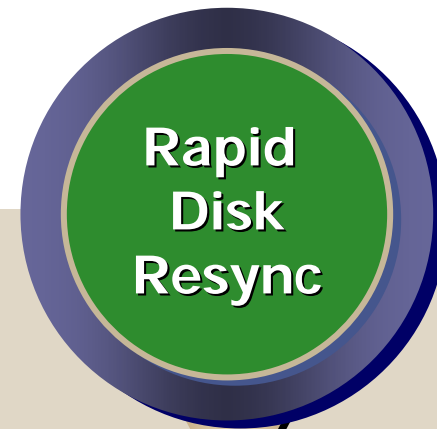
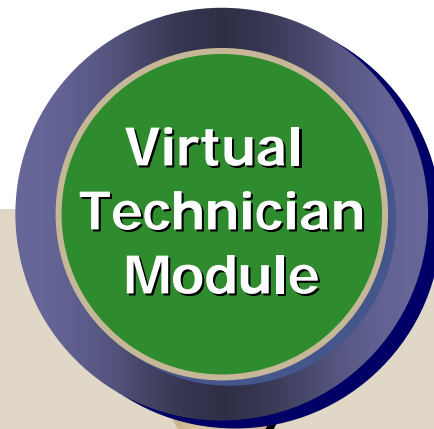
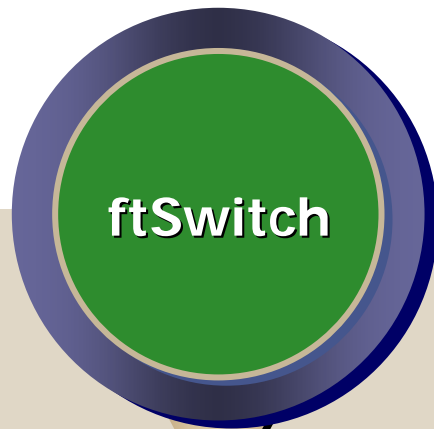


運用停止時間とリスクの比較

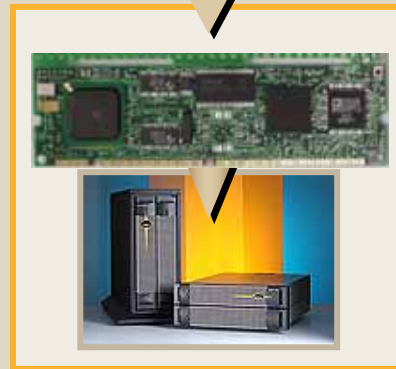
アプリケーション・アップグレードの場合



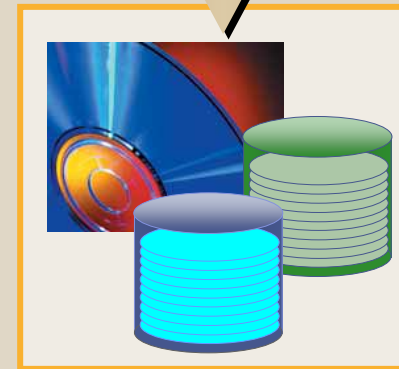
Active Upgrade™ で使用するテクノロジー



ftServer
2重化FTチップ

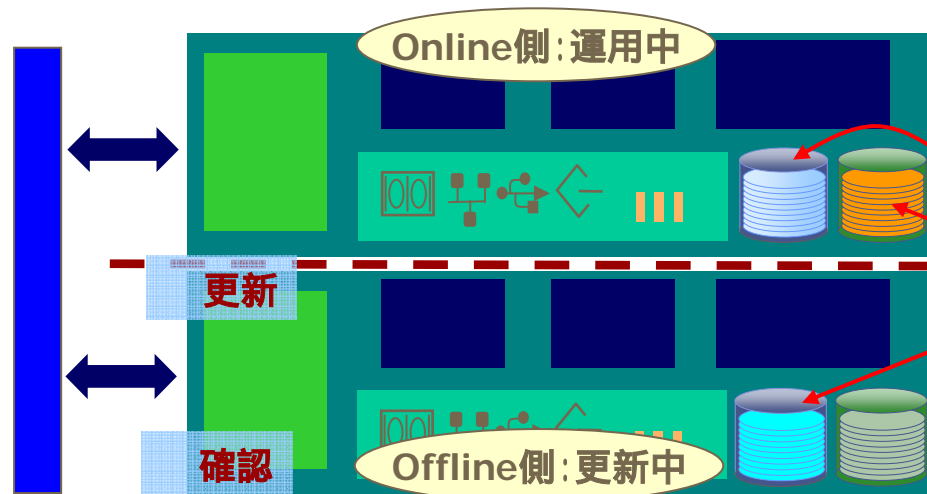


仮想画面



高速DISK
再同期ソフトウェア

Active Upgrade™の動作イメージ



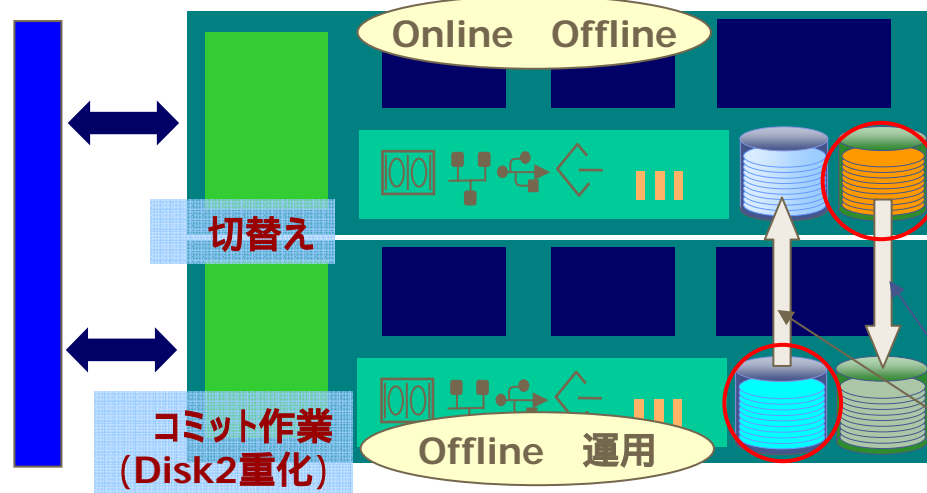
ロックステップの解除。オンライン、オフラインの2つに分かれる。

片側で処理を続行。

オンライン側データディスクは運用で更新。

オフライン側でパッチの適用やアプリケーションの更新を実施

必要ならばオフライン側をリブート、動作確認
アプリケーションの設定の確認・変更



OKならば

アプリケーションを中断しキャッシュをディスクに書き出し。

ロックステップ(同期処理)の再開。

更新されたシステムディスクと直近まで使用していたデータディスクで処理再開。

ディスクのミラーリング実施で2重化。

RDR(Rapid Disk Resync)機能で高速同期

Active Upgrade™に必要な構成と注意点



< 必要な構成 >

ftServer4300 / 4600 / 5700

VTM搭載必須(仮想端末の切り換えとオンライン、オフラインの切り替えに必要) VTMは両側ともネットに接続されていること。

アクティブアップグレード・ソフトウェア (オプションソフトウェア)

< トレーニングと日本語テキスト >

- ・実習を通してアクティブアップグレードの機能をスタディする
教育コースがセットになっています。日本語テキストも含まれます。

< 注意点 >

- ・アクティブ側を切り替えるときに運用を停止する必要があります。
- ・アプリケーションがシステムディスクに配置されている場合には
アプリケーションのアップグレードを運用中には行えない可能性があります。